

ニホンアナグマとニホンテン（食肉目、イタチ科）の交通事故死体

細 田 徹 治*・久保田 信**・乾 風 登***

Tetsuji Hosoda*, Shin Kubota** and Noboru Anaze***: The carcass of Japanese badger *Meles meles anakuma* and Japanese marten *Martes melampus melampus* (Carnivora, Mustelidae)

皮膚炎を煩ったニホンアナグマ *Meles meles anakuma* TEMMINCK と、夏毛と冬毛のニホンテン *Martes melampus melampus* WAGNER 2 種の交通事故死体を報告する。

1. ニホンアナグマ

ヨーロッパから極東までユーラシア北部に広く分布するアナグマ *Meles meles meles* LINNAEUS の亜種、ニホンアナグマ *Meles meles anakuma* TEMMINCK は本州、四国、九州、小豆島に生息し（阿部ほか, 1994）、都市近郊の灌木林から山地帯の森林にまで広く分布している。生息地としては、子育て、休息用などのために穴を複数個確保でき、食料（ミミズが主食）が十分にある場所が必要である（伊藤, 1992）。生息密度が低い本種についての県内での情報はこれまで細田のもとに届かなかった。しかし、1998年に、紀伊民報社の上田貴夫記者から「5月9日に、田辺市三栖の那須靖典氏が衰弱したアナグマに漁網をかぶせて保護した」という情報と写真が、引き続き、日高新報社の上西幹雄記者から「5月13日に、日高郡南部川村東本庄の山崎果樹園前の路上にうずくまっていたアナグマを下村浩幸氏がミカンのコンテナをかぶせて保護した」という情報が写真と共に届けられた。野生のアナグマは大変気性が激しく、簡単には人の手で捕獲されるようなことはない。しかし、両個体とも、相当衰弱していたため容易に捕獲された。

上記の記録に加えて、細田は、1998年5月21日午前7時に日高郡由良町阿戸（N33°57'33", E135°7'35"）の国道42号線道路脇で交通事故死したと思われるアナグマ1個体に遭遇した（図1a, 1b）。

事故の状況：国道を走る自動車に頭部をはねられたものと思われる。死後硬直が起こっていた。頭部が破損しており、動かすと口や耳にたまっていた血液が流れ出た。

個体の状況：雄（成獣）。頭胴長 570 mm。尾長 110

mm。全体的に体毛が粗であり、特に頭部は皮膚炎のため脱毛が広範囲で見られた（図1b）。

2. ニホンテン

わが国に生息するテンには、本州、四国、九州に分布するニホンテン *M. m. melampus* WAGNER と長崎県対馬に生息するツシマテンの2亜種がある。ニホンテンはかつて THOMAS (1905) によってキテンとスステンが区別されたが、両者は遺伝子的には差異が認められていない（細田・大島, 1993, 細田・鑑, 1996）。しかし、スステンは紀伊半島と四国に特異的に分布する（細田・大島, 1993）。これまで紹介されたテンの写真のほとんどが、冬には全身黄色を呈するキテンの冬毛と、希にはその夏毛であった（細田・鑑, 1996）。一方、スステンの場合は、野生個体の冬毛の写真はすでに細田・大島 (1993) によって紹介され、交通事故死体については久保田 (1998) によってモノクロ写真で報告されているが、夏毛の記録はまだされていなかった。今回、以下の3個体を用いて夏毛および冬毛の色相をカラー写真で紹介する。〈個体1〉

乾風は、1992年5月23日に東牟婁郡古座町田原（JR紀伊浦神駅より約1 km 西）の国道42号線道路脇で交通事故死したと思われるスステン1個体に遭遇した（図2）。

事故の状況：事故死体に遭遇したのが午前10時頃である。その時にはカラスが2羽この死体をついついていたので、胴体部分はカラスによって他の場所に運び去られたものと思われる（図2）。

個体の状況：性別、外部計測値は不明。テンの夏毛への換毛は、和歌山県では6月初旬から始まる。1カ月後には体毛が黒色を増し、喉の黄色はさらに鮮やかになり、頭部と顔面は一面に黒色に近い濃

* 和歌山県立御坊商工高等学校（〒644-0012 和歌山県御坊市湯川町小松原43-1）
Gobo Shoko Highschool, 43-1 Komatsubara, Yukawacho, Gobo, Wakayama 644-0012, Japan

** 京都大学瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海）
Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

*** 〒644-0011 和歌山県御坊市湯川町財部522-2
522-2 Takara, Yukawacho, Gobo, Wakayama 644-0011, Japan



Plate 1

図1a 交通事故死したニホンアナグマ *Meles meles anakuma* (1998年5月21日)

Fig. 1a The dead Japanese badger (*M. m. anakuma*) by traffic accident (May 21, 1998).

図1b 皮膚炎で脱毛したと思われるニホンアナグマ *M. m. anakuma* の頭部 (1998年5月21日)

Fig. 1b The depilated head of Japanese badger (*M. m. anakuma*) resulted from dermatitis (May 21, 1998).

い焦げ茶色になる(細田未発表資料)。ゆえに、残された頭部の状況から判断して、この個体はすでに冬毛から夏毛への換毛が始まっているものと思われる。

〈個体2〉

乾風は、1993年5月5日に日高郡川辺町土生の道路上で交通事故死体と思われるスステン1個体に遭遇した(図3)。

事故の状況：事故死体に遭遇したのは正午過ぎである。頭部には出血が認められた。

個体の状況：性別、外部計測値は不明。

頭部の毛色から判断して冬毛と思われる。ステンンの完全な冬毛については、細田・大島(1993)を参照されたい。

〈個体3〉

久保田は、1998年7月4日(午前1時から3時45分の間)に西牟婁郡白浜町田尻(白浜半島先端部)の海岸ぞいの道路上で交通事故死したと思われるスステン1個体に遭遇した(図4a)。

事故の状況：発見時に背部中央が血液でべとついていたことおよび、内臓が破裂し、肋骨と脊椎骨の数カ所の骨折を確認した。車に胴部をはねられたと推察される。

個体の状況：雄(成獣)。外部計測値(体重1,450g, 頭胴長440mm, 尾長170mm)。体毛は全体的に黒褐色、喉と尾端は鮮やかなオレンジ色の完全な夏毛の色相を呈している(図4a, 4b)。毛皮に損傷がまったくみられなかったため、細田は本個体の毛皮標本作製した(図4c)。

ニホンアナグマとニホンテンは、共に狩猟対象動物であるが、同じ狩猟動物のシカ *Cervus nippon* TEMMINCK やイノシシ *Sus scrofa* LINNAEUS とは異なり目に触れることがたいへん少ない。その理由は、ニホンアナグマは食肉用や毛皮用として、ニホンテンは毛皮用として多く

の個体が狩られたためである。しかし、他の理由としては、河川の護岸整備、宅地造成による灌木林の伐採などで生息場がせばめられたことが考えられる。さらに、森林性哺乳類の生活を脅かすものとして、自動車道路網の整備や発達による生息地の分断があげられる(鱧・細田, 1992)。今回報告した4例も、このような人間との共存を余儀なくされたための運の悪い犠牲者なのであろう。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、貴重な情報を提供していただいた紀伊民報の上田貴夫氏、日高新報社の上西幹雄氏に謹んで感謝いたします。

引用文献

- 阿部 永(監修). 1994: 日本の哺乳類. 195 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 細田徹治・大島和男. 1993: ニホンテン *Martes melampus melampus* WAGNER の毛色の変異. 南紀生物, 35(1), 19-23.
- ・鱧 雅哉. 1996: テンとクロテン. in 日本動物大百科, 哺乳類1, 中, 136-139. 平凡社, 東京.
- 伊藤弥生. 1992: アナグマ, in Anima, 中, 22. 平凡社, 東京.
- 久保田信. 1998: 和歌山県日置川町志原海岸の国道で次々と事故死したホンダタヌキとニホンテン(哺乳綱, 食肉目). 南紀生物, 40(1), 135-136.
- 鱧 雅哉・細田徹治. 1992: テン・クロテン. in Anima, 中, 20. 平凡社, 東京.
- THOMAS, O. 1905: Exhibition of specimens of mammals and birds from Japan and description of a new marten (*Mustela melampus bedfordi*). Proc. Zool. Soc., (2), 182-183.

図2 交通事故死した夏毛のスステン *Martes melampus melampus* (1992年5月23日)

Fig. 2 The summer pelage of the dead Japanese marten (*M. m. melampus*) by traffic accident (May 23, 1992).

図3 交通事故死した冬毛のスステン *M. m. melampus* (1993年5月5日)

Fig. 3 The winter pelage of the dead Japanese marten (*M. m. melampus*) by traffic accident (May 5, 1993).

図4a 交通事故死した夏毛のスステン *M. m. melampus* (1998年7月4日)

Fig. 4a The summer pelage of the dead Japanese marten (*M. m. melampus*) by traffic accident (July 4, 1998).

図4b 同個体の腹面図

Fig. 4b Ventral view of the same specimen.

図4c 同個体の毛皮標本の背面図

Fig. 4c Dorsal view of the skin of the same specimen.